



イケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

第 562 回 今でも笑える「彦六伝」

2014.2.2

今の正蔵ではなく先代八代目林家正蔵、俗に「彦六の正蔵」。また性格から「トンガリの正蔵」と呼ばれた噺家で、愉快的エピソードがたくさんあった。木久扇(初代林家木久蔵)が「彦六伝」として、良く口座で話しているので、ご存知の方も多いかもかもしれないが、今回はその一部をご紹介します、たまには笑えるコラムである。

ある年の一月、弟子の林家木久蔵(現・木久扇)が鏡餅に発生したカビを取っていると彦六がやってきた。師匠の目が気になる木久扇は、「師匠、どうして、餅ってカビが生えるんでしょうかね?」と彦六に聞いた。すると彦六は「**ばか野郎、さっさと食わねえからだ**」。

彦六がテレビでバスケットボールを観戦しながら独り言を言った
「誰か、教えてやりやいいじゃねえか…」
それを見ていた木久蔵(木久扇)が「**なんですか、師匠**」
「**若けえやつらがボールを拾っては、網籠に入れているだけど…、
この網籠には底が空いているのを知らねえんだ**」

新しもの好きの彦六がキムチをもらってきた。
妻が臭いと言ってキムチを洗ってしまった。
すると激怒した彦六が「**やい、ばばあ、てめえは麻婆豆腐も洗うのか!**」

春風亭小朝から、アーモンドチョコレートを誕生プレゼントとしてもらった。
一口食べた彦六師匠が一言「**このチョコレートには、種がある**」

「雪道は滑ります。気をつけて下さい」と弟子。
『分かったよ〜』といいながら滑って転んだ彦六。
しかも二回も…二回目転んだ時の台詞。
「**ああ〜！二度も転ぶなら、さっき起きなきゃよかった**」???

病院で死にかかった際の彦六の逸話。
看護婦が大声で「岡本さん(彦六の本名)、さあ、お薬飲みましょうネ、身体に良いお薬ですからね」。すると彦六は「**はあ、そんなに良けりゃー、てめえが飲みやがれ**」

晩年、敬老の日に養老院へ慰問に言った彦六「**俺より若い奴がいなかった〜**」